

ウェザーニューズ、8月～9月の「ゲリラ雷雨傾向」発表 今夏の“ゲリラ雷雨”、全国的に8月上旬～中旬がピーク ～8月は昨年より2割増の見込み、都市部でも道路冠水や河川水位の急増に注意～

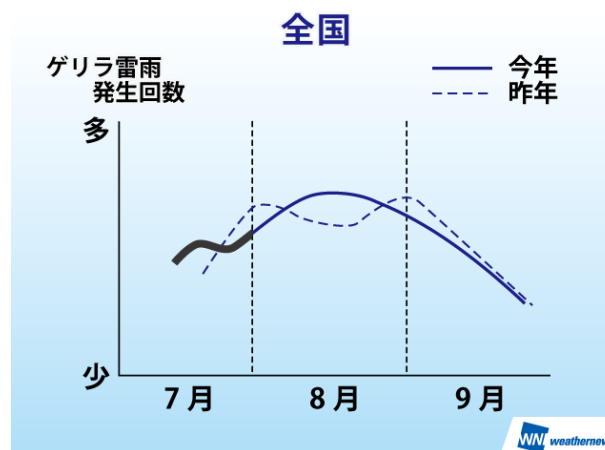
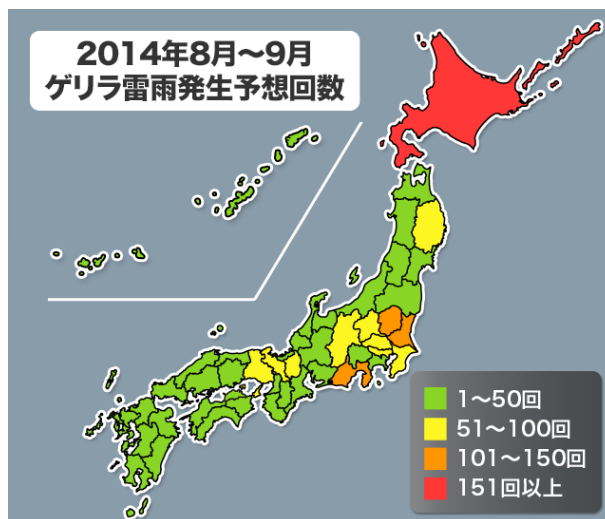
株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、突発的かつ局地的に大雨や雷をもたらす“ゲリラ雷雨”に対し、事前対策への意識を高め、被害軽減に繋げるため、8月～9月における“ゲリラ雷雨”の発生傾向を発表しました。今年の8月～9月の“ゲリラ雷雨”発生回数は全国的に昨年よりやや多くなる見込みで、太平洋高気圧の勢力が弱まる8月上旬～中旬に全国的に増加し、8月の発生回数は昨年の1.2倍となる予想です。昨年同様、急激に発達する積乱雲により、道路冠水や浸水、落雷などの被害が発生する可能性があります。“ゲリラ雷雨”の発生が多発するこの時期、一人ひとりが災害に対する意識を高め、被害軽減に繋げることが必要とされています。詳細はスマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」よりご覧いただけます。

◆8～9月の“ゲリラ雷雨”の発生傾向

“ゲリラ雷雨”は、大気の状態が不安定なときに、局地的な地上付近の気温上昇や地上風の収束などによって上昇気流が形成され、積乱雲が急発達することで発生します。

今シーズンのゲリラ雷雨の発生回数は、太平洋高気圧の勢力が弱まる8月上旬から中旬に全国的に増加する予想です。また、最も発生回数が多いエリアは関東甲信で、8月から9月の2か月間で約625回発生する見込みです。

7月は3連休の19日と20日に全国的にゲリラ雷雨となり、関東のウェザーリポーターからも大雷雨で道路が冠水したなどの報告が届きました。8月の上旬から中旬は平年に比べて高気圧の勢力が弱いため、湿った空気や上空の寒気の影響を受けやすく、ゲリラ雷雨が多くなる見込みです。昨年に比べると8月のゲリラ雷雨発生回数は2割増と予想しています。9月に入るとゲリラ雷雨の発生回数は次第に減少しますが、お彼岸の頃までは厳しい残暑で気温が高く、ゲリラ雷雨の発生する日がありそうです。また、この時期になると台風や秋雨前線の影響を受ける日が次第に増えるため、雷を伴う短時間強雨や大雨に注意が必要です。



◆エリア別：8～9月の“ゲリラ雷雨”発生傾向

エリア	2014年ゲリラ雷雨発生回数（8月1日～9月30日）		2013年ゲリラ雷雨発生回数 （8月1日～9月30日）
	予想回数	2013年比予想	
北海道	160回前後	0.9倍前後	180回
東北	195回前後	1.3倍前後	149回
関東甲信	625回前後	1.0倍前後	599回
東海	170回前後	1.2倍前後	144回
北陸	75回前後	1.3倍前後	58回
近畿	255回前後	1.3倍前後	203回
中国	110回前後	1.0倍前後	111回
四国	40回前後	1.0倍前後	38回
九州	100回前後	0.9倍前後	116回
沖縄	45回前後	1.5倍前後	28回

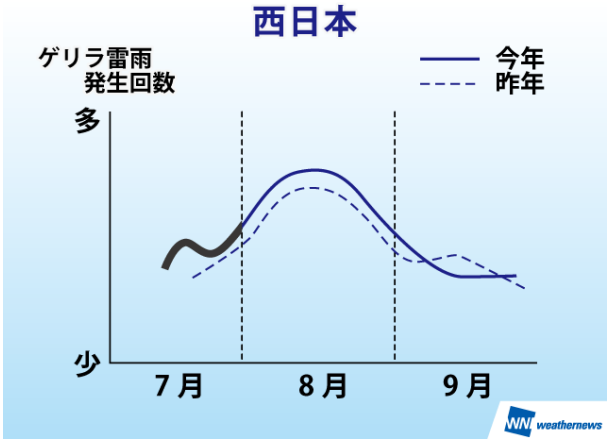
◆都道府県別：8～9月の“ゲリラ雷雨”発生傾向

都道府県	“ゲリラ雷雨” 発生回数	“ゲリラ雷雨” 発生回数	都道府県	“ゲリラ雷雨” 発生回数	“ゲリラ雷雨” 発生回数
	（8月1日 ～9月30日）	（8月1日 ～9月30日）		（8月1日 ～9月30日）	（8月1日 ～9月30日）
北海道	160回前後	180回	滋賀県	55回前後	44回
青森県	30回前後	26回	京都府	60回前後	49回
秋田県	25回前後	20回	大阪府	30回前後	24回
岩手県	55回前後	40回	兵庫県	70回前後	56回
宮城県	30回前後	23回	奈良県	20回前後	17回
山形県	5回前後	4回	和歌山県	15回前後	13回
福島県	50回前後	36回	岡山県	35回前後	35回
茨城県	125回前後	120回	広島県	35回前後	33回
栃木県	120回前後	121回	鳥取県	25回前後	23回
群馬県	65回前後	66回	島根県	5回前後	6回
埼玉県	70回前後	71回	山口県	15回前後	14回
東京都	55回前後	48回	徳島県	15回前後	14回
千葉県	70回前後	62回	香川県	5回前後	7回
神奈川県	35回前後	39回	愛媛県	5回前後	6回
山梨県	25回前後	25回	高知県	10回前後	11回
長野県	55回前後	47回	福岡県	20回前後	20回
新潟県	20回前後	15回	佐賀県	5回前後	5回
富山県	20回前後	15回	長崎県	20回前後	20回

石川県	25 回前後	18 回	熊本県	30 回前後	35 回
福井県	15 回前後	10 回	大分県	5 回前後	6 回
静岡県	105 回前後	84 回	鹿児島	15 回前後	16 回
愛知県	30 回前後	30 回	宮崎	10 回前後	14 回
三重県	25 回前後	21 回	沖縄	45 回前後	28 回
岐阜県	10 回前後	9 回	全国	1775 回前後	1626 回

◆エリアにおける 8～9 月の“ゲリラ雷雨”発生傾向

<p style="text-align: center;">北日本</p> <p>北日本のゲリラ雷雨の発生回数は、昨年と同じかやや多くなる見込みで、ゲリラ雷雨のピークは 8 月上旬～中旬になりそうです。この時期には、太平洋高気圧の勢力は一旦弱まり、湿った空気や上空の寒気の影響を受けて、ゲリラ雷雨が発生しやすくなります。</p> <p>北海道のゲリラ雷雨の発生回数を昨年と比べると、8 月～9 月は同程度になりそうです。</p> <p>東北のゲリラ雷雨の発生回数は、8 月～9 月は昨年の 1.3 倍程度になる見込みです。また、9 月後半になると秋雨前線や台風接近の影響で大雨になる日もあります。突発的な雨ではありませんが、雷を伴う強い雨に注意が必要です。</p>	<p style="text-align: center;">北日本</p>
<p style="text-align: center;">東日本</p> <p>東日本のゲリラ雷雨発生回数は昨年と同じかやや多く、ピークの時期は昨年より早くなる見込みです。8 月は太平洋高気圧の勢力が昨年ほど強くなり、湿った空気や上空の寒気の影響でゲリラ雷雨が 2 割多くなる(昨年比)と予想しています。9 月になると次第にゲリラ雷雨は減少しますが、お彼岸の頃まで残暑が厳しく、突発的な雷雨に注意が必要です。また、台風が接近して大雨になる恐れもあり、ゲリラ雷雨シーズン終盤も雨による災害に注意が必要です。</p> <p>関東甲信や東海のゲリラ雷雨のピークは 8 月となります。この時期は特に、道路冠水や河川の急激な水位上昇などに注意して下さい。北陸は 8 月、9 月ともにゲリラ雷雨が多い見込みで、発生回数は昨年の 1.3 倍程度となる予想です。</p>	<p style="text-align: center;">東日本</p>

西日本	
<p>西日本のゲリラ雷雨のピークは 8 月上旬～中旬で、発生回数は昨年と同じくらいになる予想です。8 月前半は太平洋高気圧の勢力が昨年ほど強くないため、湿った空気や上空の寒気の影響を受け、ゲリラ雷雨が発生しやすくなる見込みです。9 月には次第に雷雨の発生回数が減少しますが、9 月前半は残暑が厳しく、ゲリラ雷雨が発生する可能性もあります。また、ゲリラ雷雨シーズン終盤は、台風接近による大雨に注意が必要です。</p> <p>近畿のゲリラ雷雨のピークは 8 月になる見込みで、この時期の発生回数は昨年の 1.3 倍程度になる予想です。また、中国、四国、九州では昨年と同程度の発生回数となる見込みです。</p>	

※ゲリラ雷雨発生回数のグラフ：今年の7月（黒い太線）及び昨年（点線）部分は実況値を反映しています。

◆ “ゲリラ雷雨” 発生回数の求め方

“ゲリラ雷雨”をもたらず雷雲は、予め予測可能な前線による雨とは異なり、“突発的”かつ“局地的”に発達し、事前に予測することが難しいのが特徴です。また限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1300 箇所)では、全ての降雨を正確に観測できないのが現状です。当社では、全国 650 万人以上の利用者からなる降雨報告(※)において、過去 90 分前から 30 分前までに“ポツポツ”以上の雨が 2 割以内の状態が続いている時に“ザーザー”以上の強い雨(5 段階中の 2 番目以上に強い雨)が報告された中で、前線等の影響による雷雨を除いたものを“ゲリラ雷雨”とし、10km メッシュごとにカウントしています。昨年の発生回数は 8 月 1 日～9 月 30 日の期間で算出しています。

※) 降雨報告はスマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」を通し、“ポツポツ” “バラバラ” “サー” “ザーザー” “ゴォー” の 5 段階で報告されます。

◆ “ゲリラ雷雨” 傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みを行っていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。この度の“ゲリラ雷雨”の傾向発表にあたり、気象機関や長期予報の有識者の複数の見通しをもとに、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報は、発表日における最新の見解です。また、今年の見通しは、8 月 1 日～9 月 30 日までの期間を対象としています。